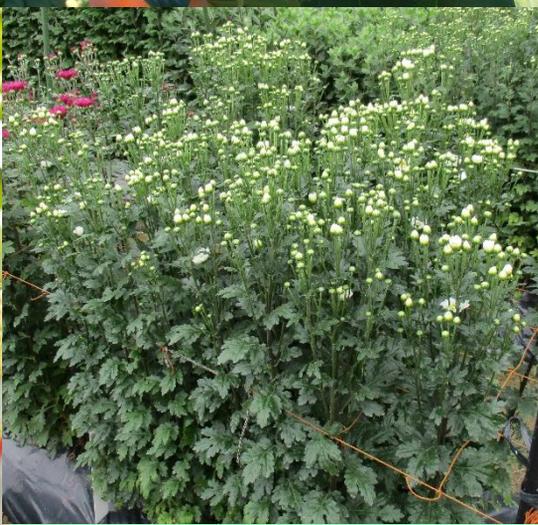


奈良県の 農産・園芸・水産



奈良県

奈良県の農産・園芸・水産

目次

1 概要	自然的条件	1
	統計	2
	産地マップ	5
2 生産状況	水稲・麦・大豆	6
	野菜	7
	薬用作物	8
	果樹	9
	花き・植木	10
	茶、環境保全型農業	11
	水産業	12
3 研究の取組み		13

〈平成30年度のトピックス〉



キクの新品種
左“春日Y1”、右“春日W1”

県育成キク“春日Y1”と“春日W1”が平成30年10月、新たに品種登録されました。“春日Y1”は春日の光、“春日W1”は春日の泉という名で流通しています。

はじめに

本県は、都市近郊という立地の良さや恵まれた自然条件を生かした、農業や水産業が古くから営まれ、柿やキク、金魚など、全国に誇れる特産品を生産してきました。しかし、今や農産物価格の低迷や担い手の高齢化など、県農業・水産業を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。

そこで、県では、奈良らしい農業・水産業の発展と農村の活性化を図るため、県産農水産物の高付加価値化、高品質化によるブランド化や販路開拓等に向けて、生産から流通・加工、販売までの一貫通貫した取組みを積極的に展開しているところです。

この冊子は、皆様方に県農業・水産業の状況や県が行っている施策や研究の取組み等を紹介し、県農業・水産業へのご理解を深めていただくために作成しました。

平成31年3月

1 概要

自然的条件

① 気象

(奈良)

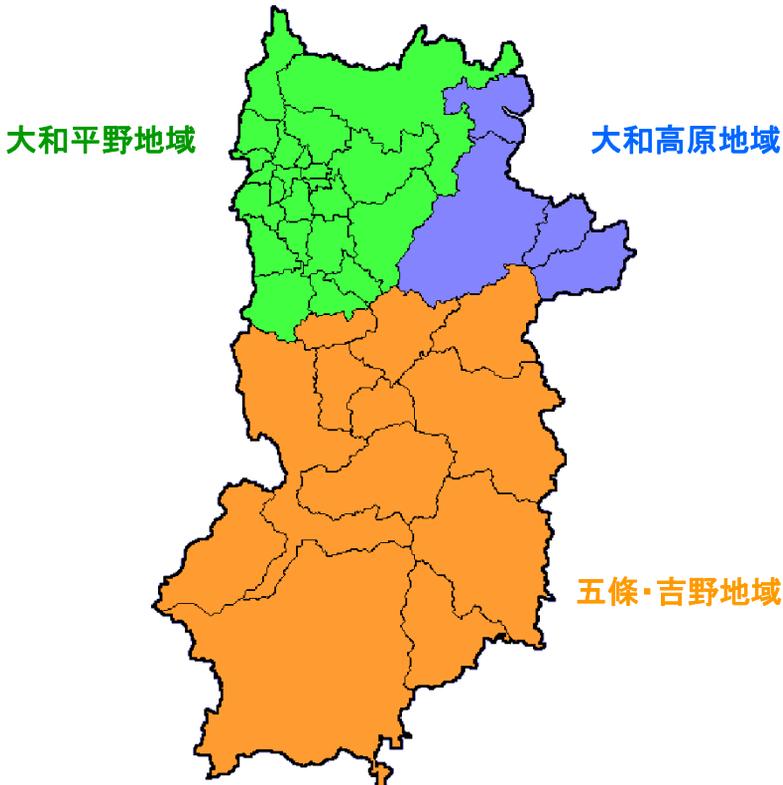
年平均気温	年降水量	年間日照時間	年平均日最高気温	年平均日最低気温
14.9℃	1,316mm	1,823h	20.4℃	10.3℃

※奈良地方気象台の地上気象観測年別平均値
(統計期間1981～2010年)

② 地勢

面積	南北	東西
3,691km ²	103.4km	78.6km

■ 地域区分



南北103.4km、東西78.6km、面積は3,691km²。国土の約1%を占めている。

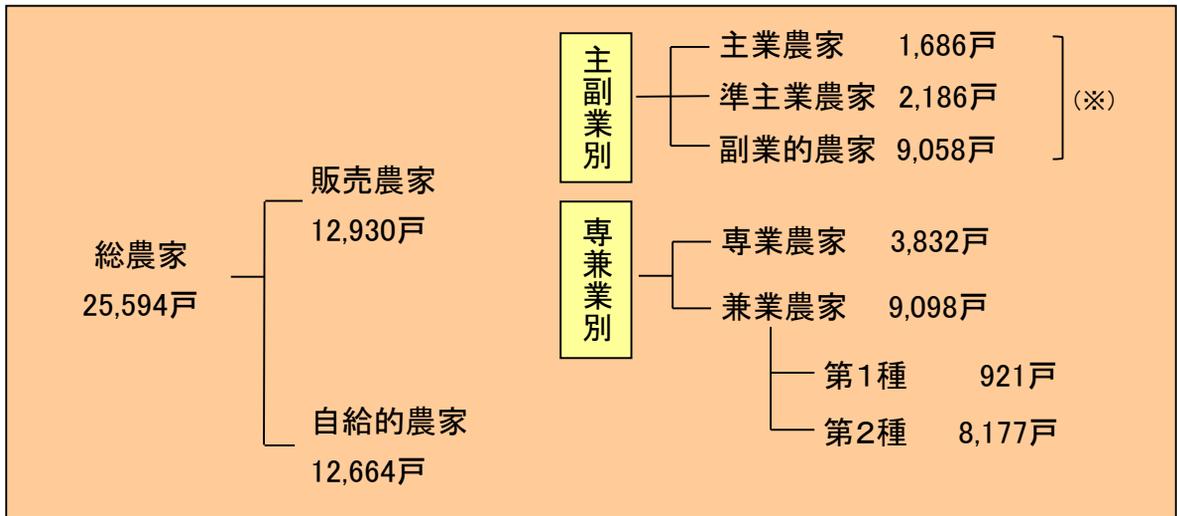
○「大和平野地域」は標高概ね100m以下の平地からなる奈良盆地を中心とする地域

○「大和高原地域」は県北東部に位置する標高200～500mの中山間地域

○「五條・吉野地域」は大部分が山間地域

統計

① 農家数



(※) 主業農家 2015年農林業センサス(確定値)
 農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいう。
 準主業農家
 農外所得が主(農家所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいう。
 副業的農家
 調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない農家(主業農家及び準主業農家以外の農家)をいう。

② 耕地 (ha)

耕地面積		
	田	畑
20,500	14,500	6,020

耕地及び作付面積統計(平成30年)

③ 食料自給率 (%)

カロリーベース	生産額ベース
15	24

農林水産省試算(平成28年度概算値)

④ 作物別産出額 (億円)

米	麦類	野菜	いも類	果実	花き	種苗 花木類 他(H27)	茶	その他	合計
108	1	111	3	86	34	4	20	63	430

「平成29年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」(農林水産省)
 麦類は県推計値

⑤ 主要品目別統計

● 水稲・麦・大豆（平成29年産）

	水稲	小麦	大豆
作付面積(ha)	8,580	110	150
収穫量(t)	44,700	268	179
産出額(億円)	108	1	0.4

農林水産省 農林水産統計
小麦・大豆の産出額は県推計値

● 野菜（平成29年産）

	イチゴ	ホウレンソウ	ナス	ネギ	トマト	キュウリ
作付面積(ha)	108	296	95	141	74	73
収穫量(t)	2,380	3,290	5,160	2,880	3,870	2,060
産出額(億円)	22	17	11	10	8	4

	サトイモ	ハクサイ	ダイコン	スイカ
作付面積(ha)	95	101	99	84
収穫量(t)	1,500	3,790	3,500	2,140
産出額(億円)	3	3	3	2

農林水産省 農林水産統計(サトイモ、ハクサイの作付面積、収穫量は平成28年産)

イチゴ、ホウレンソウ及びナス以外の産出額は農林水産省への聞き取りの値

● 果樹（平成29年産）

	カキ	ウメ	ブドウ	ナシ
栽培面積(ha)	1,830	316	76	74
収穫量(t)	32,800	1,910	—	—
産出額(億円)	67	3	7	4

農林水産省 農林水産統計(ブドウ及びナシの栽培面積は平成28年産)

ウメ、ブドウ、ナシの産出額は農林水産省への聞き取りの値

● 花き・花木(平成29年産)

	切 花				花壇用苗もの類		鉢もの類		花木
	キク	バラ	切り枝		パンジー		シクラメン		
作付面積(ha)	249	110	6	119	37	12	10	3	19
出 荷 量 (千本・千鉢)	66,200	47,000	3,890	7,850	26,600	7,980	1,110	457	241
産出額(億円)	26	13	2	5	11	2	3	1	3

農林水産省 農林水産統計(鉢もの類は平成28年産)
花木の作付面積、出荷量は県調べ

● 茶(平成29年産)

茶 期 別	全 体	一番茶
荒茶生産量 (t)	1,710	1,010

農林水産省 農林水産統計

茶 種 別	おい茶	普通煎茶	番 茶
荒茶生産量 (t)	619	240	484

奈良県農協取扱実績

栽培面積(ha)	701
産出額(億円)	20

農林水産省 農林水産統計

● 水産(平成29年産)

河 川 漁 業	ア ュ	アマゴ
漁 獲 量 (t)	44	22
漁 獲 高 (億円)	1	0.2

農業水産振興課調べ

食用魚養殖業	アマゴ
生 産 量 (t)	19
生 産 額 (億円)	0.2

生産量:農林水産省 農林水産統計

生産額:農業水産振興課調べ

観賞魚養殖業	金 魚	錦 鯉
販売数量(万尾)	6,426	0.4
販売金額(億円)	8.4	0.01

農業水産振興課調べ

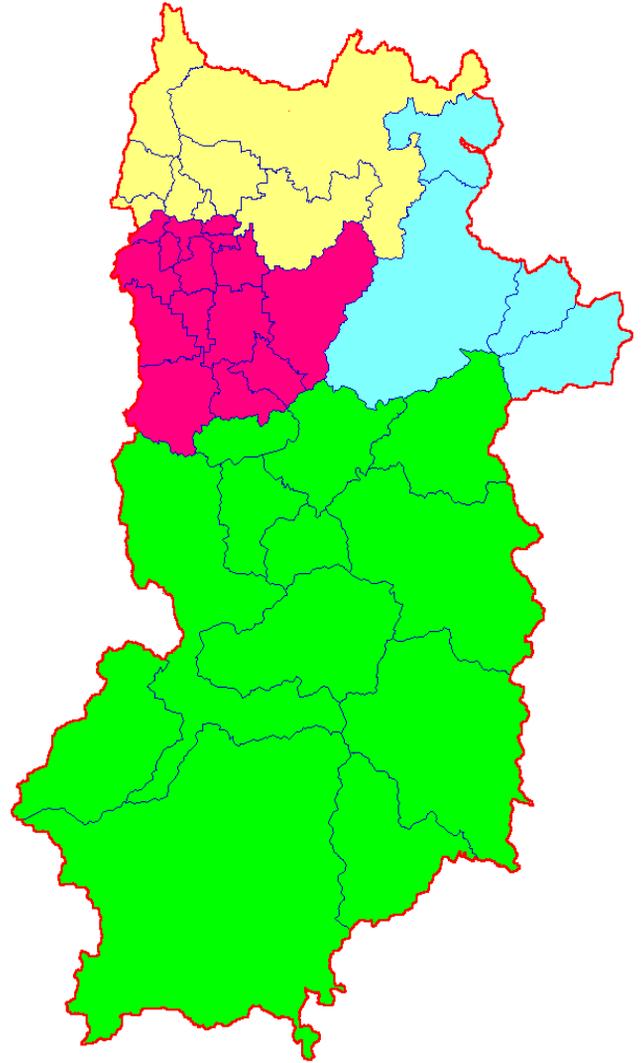
奈良県の農産・園芸・水産マップ

(米は県内全域にあるため省略)

北部 農林振興事務所	奈良市	イチゴ、ナス、ネギ、シュンギク、バラ、花壇用苗もの、鉢もの、花木類、茶
	天理市	イチゴ、トマト、ナス、ホウレンソウ、カキ、ブドウ、バラ、花壇用苗もの、茶、小麦、金魚
	大和郡山市	イチゴ、トマト、ナス、ネギ、シュンギク、イチジク、筒井れんこん、花壇用苗もの、花木類、金魚、錦鯉
	生駒市	トマト、黒大豆
	平群町	イチゴ、キク、バラ、ブドウ、枝もの
	三郷町	ブドウ
	斑鳩町	イチゴ、ナス、ホウレンソウ、ナシ、小麦
	安堵町	イチゴ、トマト

中部 農林振興事務所	橿原市	イチゴ、アスパラガス、花壇用苗もの、鉢もの、小麦
	桜井市	小麦、ソバ、イチゴ、ダイコン、ホウレンソウ、ミカン、バラ、鉢もの、花壇用苗もの、アユ、アマゴ、大豆
	川西町	トマト、ホウレンソウ、ネギ、結崎ネブカ
	三宅町	イチゴ
	田原本町	小麦、イチゴ、トマト、ナス、ホウレンソウ、味間いも、球根切り花、花壇用苗もの
	高取町	イチゴ、トマト、ナス、バラ、トウキ
	明日香村	イチゴ、軟弱野菜、キュウリ、ミカン、鉢もの、花壇用苗もの、キク、トウキ
	大和高田市	ネギ、軟弱野菜、鉢もの
	御所市	大和いも、サトイモ、鉢もの、花壇用苗もの、花木類、カキ
	香芝市	イチゴ
	葛城市	ナス、ネギ、キク、鉢もの、小麦、花壇用苗もの
	上牧町	イチゴ
	王寺町	
	広陵町	小麦、イチゴ、ナス、軟弱野菜、花壇用苗もの
河合町	ブドウ、イチゴ	

東部 農林振興事務所	山添村	ホウレンソウ、片平あかね、球根、茶、アユ、花壇用苗もの、キハダ
	宇陀市	ホウレンソウ、ミズナ、ハクサイ、レタス、エダマメ、フロッコリー、宇陀金ごぼう、切り花、鉢もの、花壇用苗もの、球根、花木類、茶、黒大豆、小豆、アユ、アマゴ、ブルーベリー、トウキ
	曾爾村	トマト、ホウレンソウ、ミズナ、シュンギク、アユ、アマゴ
	御杖村	トマト、ホウレンソウ、ミズナ、アユ、アマゴ



南部 農林振興事務所	五條市	トマト、ナス、イチゴ、キュウリ、ミョウガ、香りごぼう、カキ、ウメ、花壇用苗もの、枝もの、アユ、アマゴ、トウキ、小麦
	吉野町	ナス、ワラビ、アユ、トウキ
	大淀町	ナス、ナシ、茶、アユ
	下市町	スイカ、ハクサイ、カキ、ウメ、ブドウ、キク、バラ、アユ、枝もの、シャクヤク
	黒滝村	コンニャク、黒滝白きゅうり、枝もの、アマゴ
	天川村	ワサビ、アユ、アマゴ
	野迫川村	ワサビ、アマゴ
	十津川村	ワサビ、枝もの、アユ、アマゴ
	下北山村	ミョウガ、下北春まな、アユ、アマゴ
	上北山村	アユ、アマゴ
	川上村	アユ、アマゴ
東吉野村	茶、アユ、アマゴ	

2 生産状況

水稲・麦・大豆

水稲

本県での水稲の位置づけは、農業産出額(平成29年)で見ると農業全体の約25%です。平成30年の水稲作付面積は8,530haで、耕地面積の約42%を占めています。

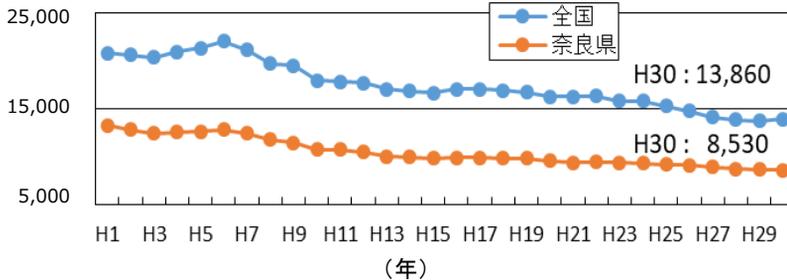
平成27年のセンサスによると水稲を作付した経営体数は、11,691戸で、全経営体の89%になります。

平成30年の品種別面積比率は図のとおりです。「ヒノヒカリ」は、「米の食味ランキング」において平成22年産より6年連続で特A評価を得ました。

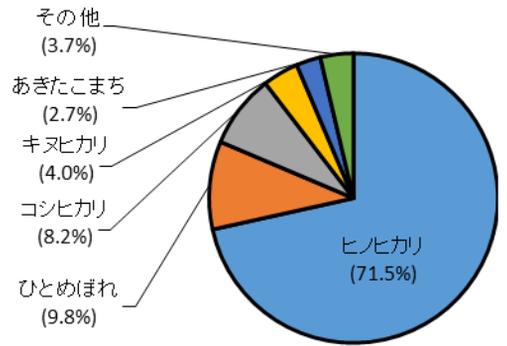


ほ場整備された水田での水稲の収穫

水稲作付面積の推移 (全国:百ha、奈良県:ha)



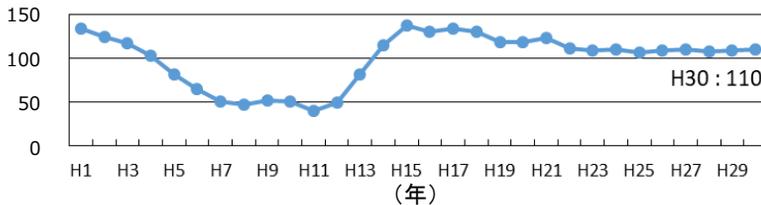
水稲品種別面積比率(平成30年奈良県推計)



麦類

麦類はほとんどが小麦であり、桜井市、田原本町を主産地として集団で作付けされています。

奈良県の小麦作付面積の推移 (ha)

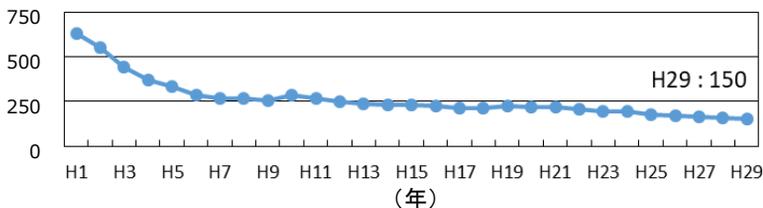


小麦の集団栽培

大豆類

大豆はほとんどが地場消費用の小規模な作付けですが、一部で集団栽培も行われています。また、県内各地で味噌加工や直売等の取り組みがされています。

奈良県の大豆作付面積の推移 (ha)



大豆の集団栽培

ソバ

ソバは、桜井市笠地区などで栽培されています。



ソバの花

野菜

イチゴ

イチゴは現在、促成作型を中心に約108ha栽培されています。(天理市、大和郡山市、奈良市他)

品種は食味が良く栽培しやすい県育成品種“アスカルビー”をはじめ、“古都華”などが栽培されています。また、作業姿勢を改善した高設栽培の導入が進んでいます。



イチゴの高設栽培

軟弱野菜

ホウレンソウ(天理市、宇陀市、曽爾村、御杖村)、青ネギ(葛城市、大和高田市)、ミズナ(宇陀市、曽爾村)、シロナ(大和高田市)、コマツナ(田原本町、宇陀市)、アスパラガス(橿原市)が栽培されています。

ホウレンソウ、ミズナ、アスパラガスはハウスによる栽培、青ネギ、シロナ、コマツナは露地栽培が中心となっています。



ホウレンソウ

ナス

夏秋期の露地栽培と冬春期のハウス栽培が行われています。露地栽培での単位面積当たり収量は全国でもトップクラスです。(五條市、広陵町、天理市)



ナス

トマト

平坦地域でのハウスを利用した促成・半促成栽培と中山間地域での雨よけ夏秋栽培に大別されます。糖度の高い完熟系などの品種が導入されています。(天理市、五條市、大和郡山市、宇陀市、曽爾村)



トマト

キュウリ

平坦地域から中山間地域にかけて栽培されており、夏秋期は露地、秋冬期はハウスで栽培されています。(五條市、桜井市)

スイカ

昭和初期の大和スイカ全盛期には1,000haを超える作付けがありました。現在は約84haまで減少しています。(天理市、下市町、五條市) 全国有数の種子供給県として知られています。

いも類他

サトイモ(御所市、天理市、桜井市)、大和いも(御所市)、ゴボウ(宇陀市)、ミョウガ、山菜類(吉野郡)が栽培されています。

大和野菜

平成17年10月、本県の特産品として特徴をアピールできる「大和の伝統野菜」と「大和のこだわり野菜」を新しい奈良のブランドとして位置づけ、これまでに25品目を認定しています。

「大和の伝統野菜」とは、戦前から本県での生産が確認されている品目で、地域の歴史・文化を受け継いだ独特の栽培方法等により、「味、香り、形態、来歴」などに特徴を持つもの、「大和のこだわり野菜」とは、栽培や収穫出荷に手間をかけた栄養やおいしさを増した野菜や本県オリジナル野菜などです。

「大和の伝統野菜」(20品目)

祝だいこん、宇陀金ごぼう、黄金まくわ、片平あかね、小しょうが、下北春まな、千筋みずな、軟白ずいき、花みょうが、ひもとうがらし、大和いも、大和きくな、大和三尺きゅうり、大和まな、大和丸なす、結崎ネブカ、紫とうがらし、筒井れんこん、味間いも、黒滝白きゅうり

「大和のこだわり野菜」(5品目)

大和ふとねぎ、大和寒熟ほうれん草、半白きゅうり、香りごぼう、朝採り野菜(レタス、なす、きゅうり)

県内をはじめ近府県への出荷が大半ですが、近年は首都圏などへの出荷が増えてきています。



大和の伝統野菜



大和のこだわり野菜



大和まな

薬用作物

薬用作物には、吉野地域を中心とするヤマトウキ、シャクヤクや大和高原北部(山添村)を中心とするキハダ(オウバク)などがあります。

県では、「漢方のメッカ推進プロジェクト」により薬用作物の生産から販売までの一体的な振興を図っており、宇陀市や高取町など県内各地でヤマトウキの新規作付が進んでいます。



ヤマトウキ(大和当帰)

果 樹

カキ

カキは全国2位の生産量があり、五條・吉野地域や天理市、御所市で多く栽培されています。主な品種は“刀根早生(とねわせ)”、“平核無(ひらたねなし)”、“松本早生富有(まつもとわせふゆう)”、“富有(ふゆう)”です。品種や栽培法、貯蔵法を組み合わせることによって7月上旬から翌年1月まで出荷されています。

輸出にも取り組んでおり、香港などに約40 t(平成30年)を輸出しています。

ハウス栽培は、昭和55年に始まり、現在、五條市、下市町で行われています。

「ハウス柿」は生産量が全国1位で、品種は“刀根早生”、栽培面積は約13haです。7月上旬から全国に先駆けて収穫が始まり、9月中旬まで出荷されています。



刀根早生のハウス栽培

ウメ

五條・吉野地域で多く栽培されています。主な品種は“鶯宿(おうしゆく)”、“白加賀(しらかが)”、“南高(なんこう)”で、5月下旬から7月上旬まで出荷されています。

市場出荷の他、加工業者向けにも出荷され、梅酒、梅ジュース、梅干し、梅エキス用などに加工されています。



ウメ

ナシ

大淀町、斑鳩町で栽培されています。

主な品種は大淀町では“二十世紀”、斑鳩町では“幸水”、“豊水”で、8月中旬から9月下旬まで直売を主体に販売されています。



ナシ(二十世紀)

ブドウ

主に平群町、河合町で栽培されています。

主な品種は“デラウェア”、“巨峰”で、ハウス栽培の作型を組み合わせ、5月下旬から8月下旬まで近郊市場へのお届けと地元での直売が行われています。



ブドウ(デラウェア)

イチジク

平坦部の水田果樹として主に大和郡山市で栽培されています。主な品種は“樹井ドーフィン”で、栽培面積は約27haです。5月上旬から10月下旬まで近郊市場を中心に出荷されています。



イチジク(樹井ドーフィン)

花き・植木

キク（切り花）

キクは主に露地栽培で5～11月に出荷されています。質・量ともに全国有数の地位を築いており、特に小ギクは全国2位、二輪ギクは全国1位の生産量を誇っています。

また、県育成小ギクとして“春日の紅”、“春日の鈴音”、“春日W1”、“春日Y1”を、県育成二輪ギクとして“千都の舞”、“千都の風”、“千都の恋”、“千都の粹”を品種登録しています。

（小ギク：平群町、輪ギク：葛城市、下市町他）



ネットハウス内での小ギクの栽培

二輪ギク

ダリア（球根・切り花）

球根養成（宇陀市、山添村）及び切り花生産（宇陀市、葛城市）が行われています。切り花は6～10月出荷の露地栽培が主で、ハウス栽培で11～5月出荷の冬春切りの作型もあります。



切り花ダリアの収穫

鉢もの

シクラメンやポインセチアなどが生産されています。（桜井市、橿原市、御所市、宇陀市、葛城市他）



シクラメン圃場

バラ（切り花）

施設での周年切り中心の作型が主流で、従来からの土耕栽培の他にロックウール栽培、少量培地耕が普及しています。

（平群町、奈良市、天理市、桜井市他）



平群温室バラ組合・バラ団地

花壇用苗もの

パンジー・ビオラを中心に生産されており、特にパンジーは全国3位の生産量を誇ります。（県内全域）



花壇用苗もの

枝もの（切り花）

ハナモモ、サクラ、サンシュユ等の花木の促成出荷や、クマザサ、チョウセンマキ等の栽培が行われています。（五條市、平群町、下市町他）



クマザサ

花木類（植木）

台杉や緑化用中低木を中心とした生産が行われています。（大和郡山市、御所市、宇陀市他）

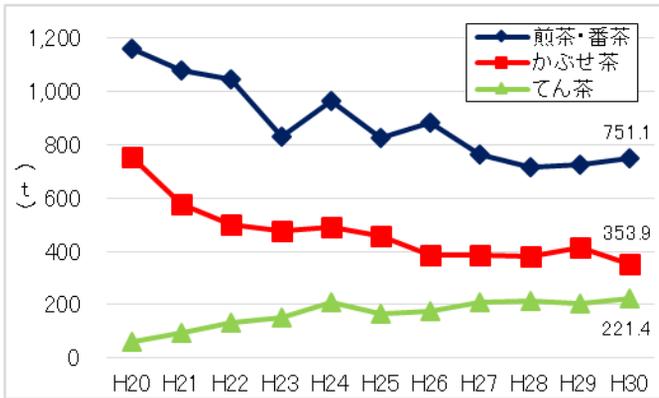
茶

「大和茶」は、奈良市、山添村、宇陀市、大淀町、東吉野村の冷涼な気候の下で栽培され、良質な煎茶やかぶせ茶が生産されています。

最近では食品加工用てん茶の需要増加に伴い、てん茶の生産量が増えてきています。

また実需者からの要望もあり、GAP(農業生産工程管理)認証を取得する生産者が増加しています。

茶種別出荷量(JAならけん取扱い)



コンテナ型複合摘採機

摘採速度の向上、肥培管理労力の低コスト化が図られ、県内の茶産地で導入が進んでいます。



機械化された大型自動製茶工場

コンピューターで統合制御された製茶工場でお茶が自動的に加工されます。



優良茶園の風景

大和高原に広がる造成茶園。防霜扇が整備された緩傾斜地に緑の縞模様が広がり独特の景観を形成しています。

環境保全型農業

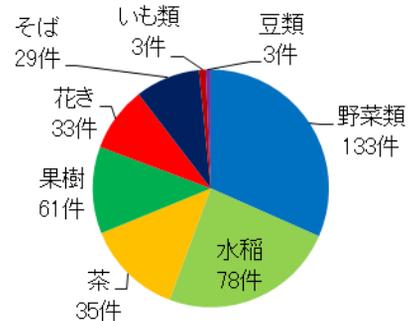
土づくりを基本とした環境保全型農業の推進に取り組んでおり、現在、奈良県での有機農業の取組面積は103ha(平成29年)、エコファーマー認定数は平成29年度末で375人となっています。

有機農産物を始め、エコファーマーの農産物の生産・消費拡大を図るため、奈良県の環境にやさしい農業シンボルマークの認定を行っています。



奈良県の環境にやさしい農業シンボルマーク

各エコファーマーの主要作付品目別件数(H30.3)



エコファーマーと消費者交流会

水産業

奈良県では、吉野川(紀の川)、新宮川、淀川、大和川の4水系の河川で、アユやアマゴなどを対象に釣りによる漁業が行われています。また、山間部で豊かなきれいな水を利用してアマゴ等食用魚の養殖が、大和平野でかんがい用水を利用して金魚を主体とする観賞魚の養殖が行われています。

『県のさかな』

県民の皆様には魚への親しみを持っていただき、これらを育む水環境への関心を高めていただくため、「きんぎょ」「あゆ」「あまご」の3魚種を県のさかなに制定しています。

河川漁業

22漁業協同組合が河川漁業を行っており、吉野川・熊野川の本支流や大和川・淀川(名張川)の上流域ではアユやアマゴを、大和川下流域や他の3水系のダム湖等ではコイやフナを中心に漁業が行われています。また、アユ漁業の振興のため、ダム湖産天然アユの有効活用に取り組んでいます。さらに、カワウの食害による漁業被害が多いことから、カワウの一定数の駆除に取り組むことで、内水面漁業・養殖業の経営の安定化を図っています。



アユ漁の解禁風景

養殖業

アマゴ

主な生産地は、吉野郡や宇陀郡で、養殖されたアマゴは河川漁業の放流用のほか、地元へ食用として出荷されたり、甘露煮などの加工品としても利用されています。

金魚

大和郡山市を中心に、水田を改良した養魚池等で養殖されています。奈良県は金魚の国内有数の産地で、生産された金魚は市場、問屋等を通じ全国に出荷されています。

その他

大和平野のため池を利用して、フナが古くから養殖されています。また、生産量はわずかですが、アユ、イワナ、ニジマスが吉野郡で地元向けに養殖されています。



アマゴ養殖場



金魚の養殖場



観賞魚市場のせり風景

3 研究の取組み

農業研究開発センターの研究成果と現在取り組んでいる内容を紹介します。

1. 野菜

●商品性の高い新たなイチゴ品種の育成



【ケーキ店・市場出荷用品種】



【高級果実店・直売用品種】

●高品質化のための技術開発



イチゴ促成栽培における花粉媒介昆虫としてのヒロスキンバエの利用技術の確立

●低コスト化・強靱化を実現する園芸用ハウスの開発



建設足場資材を利用したイチゴ高設栽培施設の現地実証

2. 花き

●低温期の茎伸長性の良い5～6月咲き小ギク品種の育成



「春日Y1」
(流通名：春日の光)



「春日W1」
(同：春日の泉)

●キクわい化ウィロイド抵抗性の小ギク品種選抜と中間母本作出



中間母本品種を育成し、抵抗性品種の育成を効率化

●無側枝性二輪ギクの育成



「千都の粋」



「千都の恋」

3. 果樹

●カキ新品種育成と県内で収集した優良系統の調査



甘柿のない時期に収穫できる県オリジナル甘柿品種の育成



御所柿の有望な系統や枝変わり個体の品質調査



チャノキイロアザミウマの被害果(左)及び発生源等調査のための粘着トラップ(右)



●柿葉安定生産技術の確立



(上)柿葉生産専用ほ場
(下)柿の葉寿司用の大きな葉(左)と一般的な葉

●ハウス柿の収穫時期予測法の開発



●イチジク安定生産技術の開発



高温と降雨による品質低下を防ぐ技術の開発

4. 水稲

●地域特性に応じた穀類の育種・品種選定と栽培技術の確立



奈良オンラインワン酒米品種の育成



穀類の奨励品種の選定



飼料用等多収性品種の選定と栽培技術の確立

5. 薬用作物

●優良品種の育成 (ヤマトトウキ)



根の商品価値を消失させる開花がしにくい品種を育成



●宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発



国産の需要が期待できる品目の栽培技術開発
(左からオンジ・トウスケボウフウ)

●生薬以外の利用に向けた 生産技術の開発



ヤマトトウキ葉の食品としての利用促進

●省力・安定生産技術の開発



機械収穫・機械除草の検討



短期育苗技術の開発

6. 茶

●早期成園化技術の開発



大和高原の気象条件で生産できるセル成型苗(左)
の開発と、現地生産現場での実証(右)

●食品添加用粉末茶と それを用いた 機能性食品の開発



センター開発の手法で
加工した粉末茶

7. 遺伝資源の保存、中山間地農業、作業負担軽減機械

●遺伝資源の保存と活用



ジーンバンクの運営

●奈良にふさわしいパイプ ハウス雪害対策技術の開発



ハウスの補強資材や安全な雪下
るし方法の開発

●黒大豆エダマメの9月どり 作型の確立



9月に収穫できる栽培方法の検討

●女性に優しい 農業機械の開発



作業負担を軽減
する機械の開発

8. 病害虫防除・環境保全

●生物機能を利用した病害虫防除技術の開発



ミナキイロアザミウマを食べる天敵・ヒメハナカメムシの利用



露地ナスほ場での天敵温存植物（マリーゴールド）の活用



緑豆によるダイズシストセンチュウの密度を下げる技術の開発

●鶏糞液肥利用技術の開発



鶏糞液肥によるトマト栽培（右下は鶏糞液肥の調製）

●農産物の農薬残留分析と農薬登録拡大



県内農産物の安全確認およびマイナー作物の農薬登録適用拡大

●遺伝子解析技術を活用した病害虫診断に基づく防除対策の開発



遺伝子解析によるダリア輪紋病の迅速な診断技術の開発

9. 新商品素材の開発・発掘

●加工商品の開発と加工技術の研究



奈良式柿タンニン(上)と柿タンニンサプリメント(右)



柿糖蜜漬けの開発



イチジクグラッセの開発

柿タンニン高速抽出技術(特許)を軸にした健康機能性と利用方法の研究

10. 植物機能

●県特産品の成分分析と調理・加工法の開発



大和野菜「結崎ネブカ」の出荷調整残渣から抽出した血圧関連酵素阻害成分を発見

●農産物の機能性成分の分析



農畜水産物ブランド認証制度に関連して、機能性成分や栄養成分による差別化の可能性について検討



●柿葉を利用した後発酵茶の開発



柿葉の有効利用のため、機能性向上を目指した後発酵茶の開発

編集：奈良県農林部農業水産振興課
平成30年度発行